

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 -)

事業所番号	0673200309		
法人名	社会福祉法人幾久栄会		
事業所名	グループホームこうらく		
所在地	山形県酒田市小泉字前田44		
自己評価作成日	平成23年 12月 8日	開設年月日	平成15年 3月 29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・家族会活動によって家族間の情報あり、家族の思いを聞いてサービス提供をしています。
- ・入居者の出来る事や得意とする事を生かして、楽しみや喜びが持てるように支援しています。
- ・地域の交流や人とのふれあいを大切に、その人らしく暮らせるよう支援しています。
- ・敷地内の福祉施設と協力関係あり、防災や行事等のサービスの共有ができます。
- ・医療機関の総合病院が隣接し受診、訪問診察、緊急時など医療面での対応は充実しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先 <http://www.kaigo-yamagata.info/yamagata/Top.do>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	協同組合オール・イン・ワン		
所在地	山形県山形市桜町四丁目3番10号		
訪問調査日	平成 24 年 1 月 16 日	評価結果決定日	平成 24 年 2 月 1 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成15年、鳥海山の麓、自然豊かな酒田市(旧八幡町)にて開設した事業者は、同敷地内の法人が運営する特別養護老人ホームや近接する市立病院(旧町立病院)等と医療や防災等、様々な分野で連携を図り、ライフステージに応じた一体的な介護を提供し利用者や家族の不安や負担の軽減に努めている。地域との交流も盛んで、イベント等積極的に参加する他、認知症ケアの拠点として、役割や活動を積極的に担う事で、地域との繋がりの継続に努めている。また、職員教育には法人一体として取り組んでおり、職員個々のスキルに応じた研修や年2回の自己評価での振り返り、また、資格取得に向けたサポート体制の構築等が職員のスキルアップを促進させ、事業所の理念である「地域とのふれあいを大切にその人らしい笑顔が見られる居心地の良い暮らし」の実現に繋がっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自 己	外 部	項 目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関やホール、事務所に独自の理念を掲げ毎朝唱和し、地域の中でその人らしく生活できるように職員が理念を共有し、行事・プランの中に盛り込んで実践につなげている。	理念はホールや事務所等、人目のつく場所に掲示すると共に、毎朝唱和することでスタッフ間での共有に努め、常に理念を意識しながら日々の介護を行っている。また、地域とのかかわりを目的とした行事や利用者の生きがい、役割をプランに盛り込み、勉強会や自己評価を通して理念を振り返ることで理念の実践に繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	買い物や散歩、ドライブのときに地域の人達と挨拶を交わしたり、地域行事(獅子舞い、祭り、運動会、亡利の山、文化祭)に参加している。又、地元ボランティアの訪問や地元小学校のボランティア活動であるアルミ缶収集に参加し子供達との交流もある。	お祭りや文化祭、小学生との交流事業を通し地域との交流を深める他、買い物や散歩の際の地域とのふれあい等、普段の交流を積み重ねる事で、地域との信頼関係の構築に努力しており、地域のボランティアの方を事業所の行事に招待し交流や連携を深める取り組みも行われている。また、同法人の広報紙への寄稿や寸劇の披露を通して事業所や認知症についての理解と普及にも努力しており、認知症ケアの拠点として、役割や活動を積極的に担っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	季節毎に発行する法人広報紙「こうらく」に事業所の日常生活の様子や認知症の理解、接し方等を記載し、地域の人に認知症について伝えている。また、人材育成の貢献として実習生の受け入れも積極的に行なっている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
4	(3)	<p>○運営推進会議を活かした取組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進委員にグループホームに来て頂いたり、家族会の活動に参加して頂いたり、入居者や家族の人を理解して頂くと共に運営推進会議では入居者・グループホームの取組みの実態や今後の計画を説明し意見を頂いている。</p>	<p>地区代表、民生委員、市及び包括職員、家族代表等の参加を得て、2ヶ月に1回開催されている。会議では事業所からの報告の他、参加者からのアドバイスや率直な意見をもらう等双方向的な会議となっている。また、会議のみに留まらず、推進委員のメンバーと他事業所の施設見学等の取り組みも行われており、地域、行政、事業所が一体となって運営に参画する仕組みを構築し、サービスの向上に役立っている。</p>		
5	(4)	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>包括支援センターや福祉課へ必要に応じて連絡を取り合っている。又地域包括支援センターが中心となつて行なう保健、医療、福祉関係による地区ネットワーク調整会議に参加して連携を深めている。</p>	<p>運営推進会議へ参加してもらおうと共に、市主催の研修会や会議等通じて情報交換を行う等、日頃から情報の共有を図っている。また、個別の案件や複雑な事案等については市や関係機関と連携を密にし協働して課題解決を図る等、協力関係が構築されている。</p>		
6	(5)	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる</p>	<p>身体拘束について、法人の内部全体研修会で勉強会を行い身体拘束の弊害について理解を深めている。玄関にはドアセンサーをして鍵を掛けないように工夫をしている。入居者が外出しようとしても様子を伺って対応し散歩やドライブに出かける事もある。一人ひとりが心地よく過ごせるように事例の場面を話し合い工夫をしている。</p>	<p>身体拘束についての研修会を定期的に行い、身体拘束の具体的な行為やその弊害について理解を深めている。センサー等の取り付け、また、見守りを強化する事で日中、玄関に鍵はかけず、外に出たがる利用者がいれば職員が付き添い散歩する等、行動や行動範囲を抑制しないケアを実践している。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>高齢者虐待防止法の資料を閲覧できるようにし職員に意識付けしている。言葉の虐待は見過ごされやすい為小さな気付きでも職員同士で注意し合い、定例会議などでも題材にしながら虐待の防止に努めている。</p>			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見人制度の資料を閲覧できるように整備し、定例会議や勉強会を開催し学ぶ機会をも設けている。また利用者で成年後見人制度を利用している方がいた為、関係機関との情報交換などで理解を深めている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退所時に契約書や重要事項に基づいて説明を行ない行ない理解を得て頂いている。又、制度改正時はその都度、案内説明を送付し不安や疑問に応え理解をして頂いている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄間に意見・苦情等の受け付け箱の設置と面会時や家族会などで家族の方から意見・不満・苦情を聞く機会を設けると共に御家族へ満足度調査(アンケート)を行ない運営推進会議や職員会議等で話し合いを設けている。	家族が気兼ねなく相談出来る環境や雰囲気作りに努め、家族会の総会や行事、満足度調査、面会の際を利用し、意見や要望について把握している。また、遠方に住んでいる家族も多く、行事等の出席が難しい現状ではあるが、疎遠にならぬよう、少なくとも月2回以上は利用者の状況報告や意向の把握に努め、積極的にコミュニケーションを図り、家族等との良好な関係を構築している。		
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や定例会議の際、定期的に意見や提案を行なう機会を設けている。尚、その意見や提案を提出し法人会議で検討を加えている。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回、日頃の取り組みに対する自己評価を実施しており、努力や実績を把握した上で評価する機会を設けている。実績と評価は職員の向上心をもって仕事する事が出来ている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外研修には経験年数に応じて研修計画を作成し参加している。尚、研修報告は定例会議等で報告を行なっている。資格取得に向けての勉強会は法人全体で支援を行なっている。又グループホーム独自でも学習会を行ないスキルアップの為、取り組みを行なっている。	職員の勤務形態、経験、事業所における役割に沿った研修計画を作成し、法人内外の適切な研修の機会を確保しており、外部研修に派遣した際には、資料の配布や伝達研修を通して職員間での共有に努めている。また、職員の目標や希望に基づき資格取得に向けた支援も行っており、職員の育成が質の高いケアに繋がっている。		
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	山形県グループホーム連絡協議会や庄内グループホーム連絡協議会の会員で職員交換研修やスクラムチャレンジの研修会や情報交換を行ないサービスの質の向上に取り組んでいる。	山形県グループホーム連絡協議会に加入する他、各種エリア毎の連絡協議会にも積極的に参加し、研修会や会議等を通して他事業所との交流を図っている。特に交換研修では、他事業所の創意工夫について、また、自らの事業所の優れている点について認識する等、事業所を客観的に振り返り評価する良い機会となっており、事業所のステップアップに繋がっている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に届くアセスメントに目を通し、面談の際には本人の不安や思いを受け止め、職員が本人に信頼してもらえるような関係づくりに努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に届くアセスメントに目を通し、面談の際には家族が求めている物を理解し、事業所としてどのような対応が出来るか事前に話し合いをしている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人や御家族の思い、状況を確認し改善に向けての支援、提案を繰り返しながら、地域包括支援センターや他事業所のサービスにつなげるようにしている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の残存能力に合った作業、手伝いを依頼し共に支え合える関係作りが努めている。畑より野菜を収穫する喜び、調理して食べる楽しみを共感しお互いが穏やかに生活が出来るよう努めている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月定期的に連絡し、日常の様子や変化を伝え、家族からも要望や意見を頂き、一緒に協力しながら支えていく体制を目指している。面会時などにこちらの情報を的確に伝え、家族も意見や要望を話しやすい環境作りに努めている。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容院や商店に行き馴染みの方に見えるよう援助している。馴染みのラーメン屋に行ったり、仏壇を拝みたい時には自宅に出向けるよう家族の協力を得ながら支援している。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者一人一人の性格を把握し、それぞれの関係性について職員同士が情報を共有し調整役となりながらお互いの関係が円滑になるよう働きかけている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後、他事業所に移られた方などにも面会に行ったりこちらに遊びに来てもらったりし、関わりを持っている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりのなかで入居者の表情や会話を通して本人の思いや意見を聞きとるように努めている。できる限り本人の希望に添えるように職員全員で話し合ったり、家族から以前の様子を聞いたりしてケアに反映させている。	センター方式アセスメントを利用し、利用前の生活歴や環境等について把握する他、日々のケアの際、何気ない会話から利用者一人ひとりの希望、要望の把握に努めている。また、意思表示が苦手な利用者については家族からの聞き取りの他、ちょっとした表情や仕草を見逃さず、希望、意向を汲み取り、サービスに反映させている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面接に行った際に本人や家族から生活歴や馴染んできた暮らし方などの情報を得ている。また、センター方式を活用しながら情報不足の所は面会時に家族や知人から聞くように努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人一人の生活リズムを把握し、日々の中で普段と違う行動や状況がみられた場合は見逃さず、気づいたら職員間で情報を共有している。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員は入居者の思いや出来ることを職員、関係者で意見交換、確認、検討し、家族の意向も取り入れてケアカンファレンスしている。介護計画は3ヶ月ごとに見直し、モニタリングは定期的な受け持ち担当者で計画作成担当者が行なっている。	毎月利用者の担当者によるモニタリングを行い、3カ月毎に行われる計画の見直しの際には、事前に聞き取りした家族の意向、要望等を取り入れながら、職員の意見も含め総合的に勘案し、現状に即した介護計画の作成に努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は介護経過と生活記録に分けている。日々の暮らしに中で気づきや変化があった時は、職員間で申し送りを行ない、その結果を介護計画の見直しにも生かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化(小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる				
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアや地域の商店に買い物に行ったり、地域行事でコミュニティセンターや小中学校に出掛けたり、地域にある社会資源を活用している。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望にてかかりつけ医を決めている。受診や通院は原則として家族が行なっているが出来ない時は職員が付き添ったり、訪問診察を利用している。医療機関とは上申書を使用し連携を図っている。	かかりつけ医は利用者や家族の希望、状況等について考慮し選択できる。また、隣接する特別養護老人ホームの看護師や市立病院(旧八幡町立病院)等とも連携を図り、上申書や指示書を取り交わしながら医療関係者や家族と情報の共有を図り、適切な医療支援に繋げている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接する施設より看護師が来荘し健康管理、医療機関との連携を行ない24時間体制で緊急時の対応を行なっている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	隣接する病院へ入院した場合は一日2回(午前・午後)面会に行行って安心して治療できるようにしている。家族や医療関係者との情報交換や退院後の相談に応じている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した際の対応について話し合いをしている。重度化した際は状態に応じて家族、主治医と話し合いを設けている。主治医からは医療に対する説明とグループホームでの可能な対応を説明し本人にとって適切な対応を検討している。	重度化した際の対応方法については指針を用いて説明し、状況に応じた繰り返しの話し合いや段階的な合意を得ながら、隣接する同法人の特別養護老人ホームや医療関係者らと連携し、利用者や家族の不安並びに負担の軽減に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師の指導のもと応急手当と初期対応を行なっている。緊急時の対応マニュアルや連絡体制を日中、夜間に分けて作成している。必要に応じ、同敷地内の他施設より応援要請で対応している。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害訓練は定期的に行なっており消防署の協力も得ている。夜間の災害訓練も実施しており家族や地域の協力員からも協力を頂いている。災害時に備えて食糧品や飲料水を備蓄している。	法人合同の避難訓練を含め、2カ月に1回開催されており、消防署や地域の協力員が参加し、夜間を想定する等実践的な訓練となっている。また、食糧の備蓄や暖房機器、備品等を確保する他、法人として自家発電機を所有しており、災害時の停電にも最低限の電力を確保し、供給できる仕組みを整えている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の尊厳と権利を守りながら利用者に対してプライドや傷つけない言葉掛けや対応に気をつけている。また、定期的な会議などで職員同士で関わり方や言葉使い等、改善点がないかの見直しを行ない対応を行なっている。	管理者及び職員は、言葉かけや態度が利用者にも与える影響について十分認識し、何気ない会話でも十分配慮し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応に努めている。特に言葉かけは、言葉を発した本人も気付かず見過ごされやすいため、小さな気付きでも職員同士で話し合い、また、職員会議等で事例を検討する等、細心の注意を払って接する事を心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの状態に合わせて自己決定出来るような言葉かけに努めている。飲み物を選ぶ際も写真付きのメニューを準備したり、洋服なども自分の好みの物を着て過ごせるような工夫をしている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の生活の流れはあるが、本人の希望や体調を考慮し、その方その方のペースに合わせて生活できるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に応じた服を一緒にえらんだり、起床時、化粧をして自分らしいおしゃれが出来るように支援している。また、行きつけの美容院からホームに来てもらい希望に合わせたカットをしてもらったり、家族と一緒に美容院へ出掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買物と一緒に行き選んでもらったり、食事の準備から後片付けまで職員と利用者が一緒に行なっている。又ホームの畑から野菜と一緒に収穫し、野菜の切り方や保存方法など聞きながら出来る力を発揮できるようにお願いしている。	法人の管理栄養士が作成した献立を参考に、利用者の希望を取り入れながら、利用者と職員と一緒に買い出した食材や地域の方から差し入れられた季節の食材、家庭菜園で収穫した馴染みの食材を利用し3食事業所で調理している。また、利用者の状況に配慮しながら配膳や皮むき等、食のプロセスを職員と共に進める事で利用者に自信や生きがい生まれ、また、食事が楽しみになものとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	特養の管理栄養士の献立を参考にしながら、栄養バランスに配慮している。食事量や水分量は毎食記入し、水分不足にならないようにしている。月1回は体重測定を行い一人ひとりのBMIチェックして状態を把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きや義歯の洗浄の声掛けや介助をしている。また、入れ歯の手入れや口腔内の観察も行い必要時は歯科受診を含めた対応もしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を用いて、一人ひとりの排泄パターンを把握し、個別に声掛けや誘導し トイレへ排泄を促している。	利用者毎の排泄チェック表を活用することで利用者の排泄リズムを把握し、適切な声かけを行い、出来る限りトイレでの自立した排泄支援を心掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防に水分や食物繊維、乳製品を多く摂るように努めている。毎日体操や家事活動、散歩など個人に合わせて身体を動かすようにし、自然排便を促すようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	一人ひとりの希望する時間帯や体調に合わせて入浴を行なっている。常に体幹清潔保持に努めている。	一日の流れの中でおよその入浴時間帯は設定しているが、その日の利用者の体調や希望に臨機応変に対応し、また、入浴剤や菖蒲湯等、入浴が楽しみになるよう支援している。入浴が苦手な利用者には強制せず、声かけを工夫しながら入浴を促す他、清拭や部分浴等で清潔保持に努めている。尚、滑り止めのマットや肘掛け用の椅子等も活用し、安全かつ快適な入浴の支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムを整える為、日中の活動を促している。また、休息したり、眠れないときには職員と話す事で安心して過ごせるようにしている。就寝前はお茶を飲みながらテレビを見たり会話したり、ゆっくりくつろげるように配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方時に前回の処方と比較し、変更ある場合は処方の備考欄に記入している。処方箋はまとめてファイルに閉じ、職員がいつも見られるように管理している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の暮らしの中に、食事作りや洗濯たたみ、掃除など、それぞれが自分の得意とする分野を行ないながら満足感を得られるような工夫をしている。梅干しや干し柿作りなど、経験や知恵を発揮できる場を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出掛けたいと言う声が聞かれた時は可能な限り実現にむけ支援している。個別にも職員付添で、昔なじみのラーメン屋に食事に行ったり、実家を訪ねたり、好みの化粧品を購入しにいたりしている。地元観光地の見学の要望がありボランティアの協力を得ながら行なっている。	日頃から散歩等で外気に触れ気分転換を図る他、ボランティア等の協力を得て、足湯ドライブや観光スポットへのドライブに出かけている。また、利用者個々の希望にも臨機応変に対応し、昔から通っているラーメン屋での食事や実家への一時帰省等にも対応している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人がお金を所持したい方については家族と相談し、小額のお金を所持している人もいる。化粧品やお菓子など買物に出掛け自分で支払いも行なっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	趣味活動で作った絵手紙を随時遠方の身内や家族へ出したり、電話の希望があれば先方に掛けたり出来ない時は代わりに伝えたりし支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やホールには観葉植物を配置したり、ホールや廊下の飾り付けも季節感が得られるような工夫を施している。食事では季節の食材を多く取り入れたり、菖蒲湯やゆず湯での入浴も行なっている。夏場は直射日光をさける為、それぞれの窓に簾を設置したり、冬場は全面床暖房の為温度設定に配慮したり、加湿器の設置や洗面台にお湯をはり乾燥を防いでいる。	リビングは広く、大きな窓からは鳥海山を一望でき、観葉植物の配置や行事の際の写真、季節の飾りつけ、利用者の作品の掲示が家庭的な雰囲気を演出している。エアコンや加湿器等の設置で温湿度も快適に保っており、利用者はテレビの前のソファやこたつのスペース等、思いおもいの場所でくつろぐことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席やソファ席、和室などを配置しそれぞれが好みの場所で過ごせるように工夫している。日当たりの良い場所を好む方にはその時その時の希望の場所に椅子を配置し、一人の時間をゆっくり過ごせるスペースを提供している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談しながら、使い慣れたものや馴染みの物を持ってきてもらっている。家族写真や思い出のもの、大切なものがあることで安心してすごせるように工夫をしている。	利用前の環境とのギャップを感じる事がないよう利用者それぞれの馴染みの物をもち込んでもらい、それぞれが好みに応じて配置し、飾りつけ等も違和感のないよう配慮され居心地よく過ごせるよう工夫されている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部には段差はなく、手すりが付いて安全に歩く事が出来る。畳の段差は解消し、リスクマネジメントを実施し安全な環境に取り組んでいる。			